

★ 授業のヒント

テーマ 学習者の発話に フィードバックする

目的 もくてき
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語習得を助ける げんごしゅうとく たす ・ 学習の動機を高める がくしゅう どうき たか
学習者のタイプ がくしゅうしゃ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初級、中級、上級 しよきゅう ちゅうきゅう じょうきゅう
クラスの人数 にんずう
<ul style="list-style-type: none"> ・ 何人でも なんにん
準備するもの じゆんび
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし とく

クラスの中で、学習者がうまくできたとき、間違えたとき、普段あなたはどのようにしていますか。

今回は、教師の質問に答えたり、発表するなどの学習者の発話への対応の仕方について考えてみることにしましょう。

発話へのフィードバック

学習者の発話に対して、それが正しいか間違っているか結果を知らせることを、フィードバックと言います。

クラスでのフィードバックには、正しいと伝えるもの（肯定のフィードバック）と、間違っている、あるいはもっといい言い方があるということ伝えるもの（否定のフィードバック）の2種類があります。

授業ではさまざまな学習者が、それぞれのやり方で学習を進めています。フィードバックは、そういった学習者個々の学習過程に働きかける有効な方法の一つです。また、フィードバックは、ある学習者によかったか悪かったかを示すだけでなく、日本語をもっと勉強したいという学習者のやる気（動機）を高めたり、クラス内のよい雰囲気作りをしたりすることにも役に立つようです（参考文献5、p.188）。

フィードバックの流れ

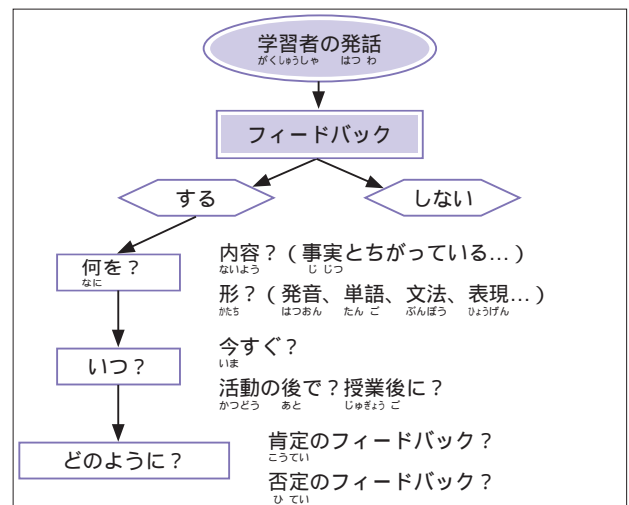
学習者の発話へのフィードバックはどのような流れで行われるのかを見てみましょう。

まず、学習者が発話したとき、それを聞いて、教師は

今回は、学習者へのフィードバックの方法を紹介しします。特に、口頭練習や会話練習中の学習者の発話に対するフィードバックを取り上げます。

フィードバックをするかしないか判断しなければならいでしょう。学習者が間違えたからといっていつも必ず直さなければならないということではありません。授業全体の流れなどを考慮して、フィードバックしない場合もあるでしょう。

もしフィードバックをすると判断した場合には、何を、いつ、どのように、フィードバックするか判断することになります。以上の流れは下の図のようになります。



何をフィードバックするか

近年の言語習得研究では、学習者がする間違いは「学習に必要な過程」と考えられています。したがって、教師は、「一つも誤りが起きないようにする」「誤りを見つけたら全部直さなければならない」と考えるのではなく、誤りを効果的に利用すると考えたほうがよいようです。

たとえば、下のよう、コミュニケーションに関わる大きな誤りから語句や発音などの小さな誤りまで段階的に分けて考えます。そして、大きな誤りについては、特に取り上げてフィードバックする、小さな誤りについては、一つ一つ取り上げない、発音練習の時間や文型のドリルの時間に限ってフィードバックをする、というようにフィードバックの仕方を区別することもできます。

大きな誤り・・・意味や内容の間違い
言っていることの意味がわからない、教師の意図を誤解している、事実と異なっている、など
小さな誤り・・・形の違い
発音/ことば/文法などが正しくないけれども前後の意味から何を言っているか理解することができる、など

いつフィードバックするか

文型練習など形の正確さを高めるための練習のときには、フィードバックはできるだけ早く与えた方がよいと言われています。学習者の答えが正しかったとき、あるいは間違っていたとき、その場ですぐフィードバックするとよいでしょう。

しかし、ペアでのロールプレイやクラス全員の前での発表などなめらかに話すための活動のときには、フィードバックすると、会話の邪魔になって、かえって学習者が話そうという気持ちをなくしてしまうかもしれません。そのような場合には、活動が終わってからまとめてコメントをする、あるいは、気づいたことを書いたメモなどを授業の後で渡す、録音したテープを聞いてコメントをする、などの方法もあります。

どのようにフィードバックするか

1) 肯定的フィードバック

肯定的フィードバックには、「ほめる」と「答えが正しいことを認める」の2つのタイプがあります。

「いいですね」「よくできました」「上手ですね」「すばらしい！」などと言うのは、ほめる例です。

また、学習者の反応が正しいことを示すには、うなずく、にっこり笑う、「はい」「はい、そうです」「正しいです」「その通りです」と言うなどのやり方があります。

肯定的フィードバックをもらって嫌な気持ちのする学習者は多くないはずですが、教室では、その場にに応じて、何種類か使い分けてみるとよいでしょう。

2) 否定的フィードバック

否定的フィードバックは、学習者の発話が間違っていること、適切ではないことを知らせるもので、はっきり知らせる“明示的な”方法と、遠回しに会話の流れを邪魔しないように知らせる“暗示的な”方法の2種類に分けられます。

2 - 1) 明示的な否定的フィードバック

「間違いですよ！」と言ったり正しい形をすぐ示したりする代わりに、

学習者：(これは) 私は撮った写真です。

教師：えっ？

学習者：あつ、私が撮った写真です。

(参考文献 1. p.120)

このように学習者に自分で気づかせるのも一つの方法です。

また、学習者の誤りが生じたときに、教師がだまってお人差し指を立てて示すようにするなど、前もって教室のサインを決めておくこともできるでしょう。

否定的フィードバックで気をつけたいことは、学習者

このコーナーの担当者：有馬淳一、古川嘉子（日本語国際センター専任講師）

読者の皆さんからのアイデア、成功例、失敗談などぜひお寄せください。

を怖がらせないようにするということです。

たとえば、次のような方法は、学習者のやる気を損ねずにフィードバックの効果があるでしょう。

- ・学習者が自分で気づくように数秒間待ってみる。
- ・一人の学習者に対してではなく、クラス全体に向かって誤りの訂正を行う。



動詞の形を変えるドリルなどでは、教師ではなく、学習者同士で間違いを直し合う。

2 - 2) 暗示的な否定的フィードバック

下の例では、会話の自然な流れの中で、理解を確かめるような形でフィードバックしています。

学習者A：明日のパーティーに何人来ますわかりません。

教師：そうですか。何人来るかわかりませんか。

また、次の例では、誤解を生むかもしれない学習者Bの言い方を、もっと適切な表現に言い直すことによってフィードバックしています。

学習者B：私は忙しいので行かないかもしれません。

教師：Bさんは行きたいけど、行けそうにないんですね。

もちろん自分の間違いについてフィードバックされたことにまったく気づかない学習者もいることでしょう、何度目同じ間違いを繰り返す学習者もいることでしょう。でも、学習者がおとなの場合には効果のある方法だと言えます。

みなさんも自分のクラス、自分の学習者に合った方法はどれか、いろいろ試してみてください。まずは自分はいつもどうやってフィードバックしているか、それによって授業や学習者にどのような影響があるか意識することから始めてみてはいかがでしょうか。

参考文献

1. 朝倉美波 他 (2000) 『日本語教師必携ハート&テクニク』アルク
2. 岡崎眸 (1992) 『教室技術 - 誤りへの対応 -』『ケーススタディ 日本語教育』(岡崎敏雄他編)おうふう
3. James, C. (1998) Errors in Language Learning and Use. Longman.
4. Long, M. et. al. (1998) The Role of Implicit Negative Feedback in SLA: Models and Recasts in Japanese and Spanish. The Modern Language Journal. 82-3. p.357-371
5. Richards, J.C. & Lockhart, C. (1996) Reflective Teaching in Second Language Classrooms. CUP